

ジュニアサッカー津山フェスティバル 《プロローグ》

1962年(昭和37年)日本体育協会は「日本スポーツ少年団」を創設した。その年津山市では、第17回国民体育大会の「蹴球競技」が開催された。

1964年(昭和39年)第18回東京オリンピックで、日本は世界の強豪アルゼンチンに勝利した。

1965年(昭和40年)第1回全国サッカースポーツ少年団大会が開催され、わが国の少年スポーツに漸くサッカーが浮上した。清水市(現在の静岡市)、神戸市、広島市などに次々とサッカー教室やスクール、クラブが開設・創設され、その取り組みは瞬く間に全国各地に波及していった。当時は、まさに少年サッカーの黎明期だったと言える。

神戸少年サッカースクールが、1963年(昭和38年)に設立された「兵庫サッカー友の会」の肝いりで1965年(昭和40年)に誕生した。それは、日本サッカー界でのパイオニア的スタートであった。

5年後の1970年(昭和45年)には、「ヨーロッパ型」の市民スポーツクラブ「神戸フットボールクラブ」として社団法人化され、クラブ発展の道筋がつけられた。もともと神戸は、日本サッカーの発祥の地である。そのプライドとサッカーを人一倍愛される情熱をもった、先駆的な取り組みの中心人物は故加藤正信氏であった。加藤氏の先見の明と業績の数々は、いつまでも多くの関係者が感嘆の言葉を惜しまないところである。もちろん、そこに馳せ参じられた面々の英知と努力の結集の素晴らしさも忘れてはならない。

加藤正信氏は、ご自分の神戸だけではなく、1966年(昭和41年)発足の「シマネ少年サッカースクール」。そして、1967年(昭和42年)開設の「津山少年サッカースクール」などにも、熱心にアドバイスをして下さった。そうした過程で創設されたのが、「ジュニアサッカー津山フェスティバル」の前身の「近県サッカー少年団交歓会」であった。神戸と松江。その間に位置する津山。同じスタイルの少年サッカースクールが、交流することによって互いに伸びていこう。三つのスクールそれぞれに地域に少年サッカーを広めよう、加藤氏のそのような発想は、津山の竹内恒彦は勿論、松江の児玉耕平氏(当時島根大学教育学部教授)も直ぐに賛同された。そして、1968年8月24日、25日と津山市宮グラウンド(現:津山中央公園グラウンドの前身)での開催となったのである。

津山では、神戸にならってサッカースクールをサポートする「津山サッカー友の会」を設立して受け入れ態勢を作った。加藤氏は、わざわざ津山に足を運ばれ、市の教育委員会を始め関係機関との折衝の仕方、ご自分が内科医の立場から「熱中症予防対策」等についても、細かなアドバイスをして下さった。今も大事にしまっている氏からの書簡には、昼食後の日中2時間は試合はしないことや帽子を着用することなどが記されている。また、キャンプファイヤーでの交流プログラムや全員参加のサッカー教室など、単なる競技会で終わることのないように、ユニークな提案をして下さった。

少年サッカーの競技会や交流会は、各地で花盛りの様相である。そして、多くの場合が試合の消化と結果だけが大事にされがちであるが、津山フェスティバルでは加藤氏の遺志をいつまでも継承し、真に少年サッカー育成にプラスするイベントにすることを考え続けている。ナイスプレーヤー賞や各種チーム賞を設けたり、グリーンカードの活用。期間中の指導者研修会(セミナー)の開催など、常にサッカー少年育成のためのプログラムに趣向をこらしている。

日本サッカー協会の「強化指導指針1996年版」では、育成年代に「少人数制サッカー」が推奨され、1998年版では、「スモールサイドゲームの活用」として、「8人制」が提案された。それらを機に神戸市などでは「8人制のリーグ戦」が行われた。津山フェスティバルでは、1997年の第30回「5年生の部」(U-11の部)で試行し、翌年から「6年生の部」(U-12の部)も「8人制」としたのである。

日本サッカー協会の公式大会では、2009年から「ちびりんピック8人制サッカー」が開催され、昨年(2011年)「全日本少年サッカー大会」も、やっと「8人制」になったのである。日本協会で提案されると共に、津山フェスティバルが採用してから実に15年が経過していた。「8人制」が全国版になったことで関係者は感慨ひとしおのものをおぼえた。

ところで、「8人制」を採用しさえすれば育成効果が期待できるというものではない。指導者は、「8人制」の趣旨をよく理解し、指導のポイントを適確にとらえて子どもたちに接しなければならない。指導者セミナー(研修会)では、「8人制サッカーを活かす取り組みの課題と配慮」をテーマとした。

走り続けて45年。津山フェスティバルの当初から関わっている者は、私一人となってしまった。しかしながら、本フェスティバルの企画は評価されて、津山市と(財)岡山県サッカー協会が主催する形になって継続している。各方面の心温まる支援と、関係者のエネルギーが組織されている。この夏もサッカー少年と指導者は、炎天にめげず緑深い津山でまた一段と成長してくれることだろう。